

# 刈谷田川・五十嵐川・信濃川下流における 上下流一貫した緊急治水対策の推進

～H16.7 新潟・福島豪雨への対応～

新潟県新潟市、三条市、見附市、長岡市（旧中之島町）他

## 1. 事業の概要

平成16年7月12日～13日の梅雨前線豪雨（新潟・福島豪雨）により、信濃川下流の支川刈谷田川(県管理河川)、五十嵐川(県管理河川)では全半壊を含む床上床下浸水約1万棟、浸水面積約2,500haにおよぶ甚大な被害を受けました。

この災害に対し、国、県が連携して上下流一貫した緊急治水対策として、平成16年度より直接被害のあった刈谷田川、五十嵐川においては「河川災害復旧助成事業（県）」が、また、同助成事業により流量増となる下流側の刈谷田川下流部（県）及び信濃川下流(国)においては、その受け皿確保として「河川災害復旧等関連緊急事業」を、それぞれ実施しています。

この事業の実施により、今回被害の大きかった三条市、見附市、長岡市（旧中之島町）はもとより新潟市をはじめとする信濃川下流域全体の治水安全度を向上させます。

## 2. 事業の経緯

### 【直轄】

平成15年度 信濃川下流の「緊急対策特定区間」として、約16kmの重点的堤防整備に着手

平成16年度 新潟・福島豪雨出水により、上記の緊急対策特定区間を含む約34kmの区間を、信濃川下流「河川災害復旧等関連緊急事業」として事業採択、事業着手

### 【補助】

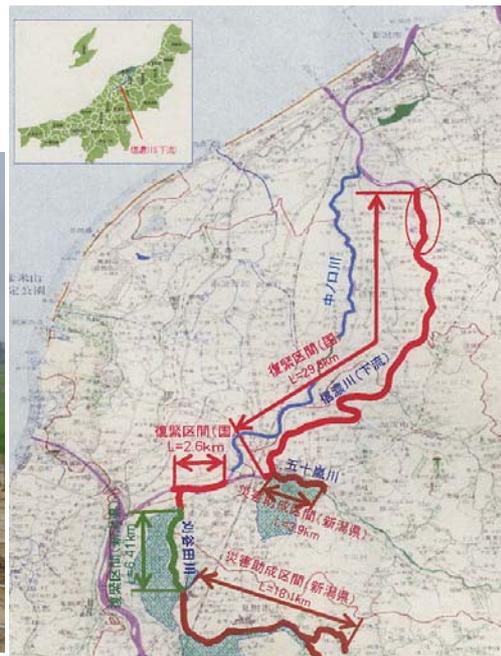
平成16年度 新潟・福島豪雨出水により刈谷田川、五十嵐川で「災害復旧助成事業」及び刈谷田川で「河川災害復旧等関連緊急事業」が事業採択、事業着手

## 3. 平成18年度の要求内容

平成20年度の完成を目指し、平成18年度は事業用地の取得、築堤、河道掘削を推進します。



新潟市大秋地先の築堤現場（H17.8.1）



# 大河津可動堰改築の推進

～著しく老朽化した施設の改築及び流下能力の向上～  
信濃川水系大河津分水路（新潟県西蒲原郡分水町）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

大河津可動堰は、信濃川と大河津分水路の分派点に位置し、昭和6年に完成して以来、洗堰とともに大河津分水の根幹的施設(分流制御施設)として、治水、利水機能等に大きな役割を果たしてきています。しかし、設置後70年以上経過し、施設本体の老朽化が顕著となるとともに、敷高等の影響により流下能力不足が生じており、その抜本的対策が急務となったことから改築事業に着手しました。

新可動堰は、現固定堰の下流約300m地点に建設し、流下能力の向上を図ります。改築にあたっては、景観に配慮した堰構造として日本最大級のラジアルゲートを採用するとともに、新技術の活用、コスト縮減、環境にも配慮し、事業を推進していきます。

### 2) 全体計画

堰本体改築 1式、河道掘削 約1,800千m<sup>3</sup> 等

## 2. 事業の経緯

平成15年度に「特定構造物改築事業」により改築事業に着手。

平成16年度末までに、河道掘削約110千m<sup>3</sup>を実施。

平成17年度に堰本体工の工事に着手予定。

## 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は可動堰本体改築のために必要な仮締切工、掘削工を推進するとともに、堰に架かる管理橋の下部工に着手します。



# 信濃川水系芋川における直轄砂防事業の推進

～ 芋川河道閉塞対策工 ～

信濃川水系芋川（新潟県長岡市、魚沼市、小千谷市、川口町）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

信濃川水系魚野川右支川の芋川は、平成16年10月に発生した新潟県中越地震により、流域内で多数の山腹崩壊や地すべりが発生しました。それに伴い、多くの河道閉塞が発生するとともに大量の不安定土砂が河道内に堆積しています。これら不安定土砂の流出による被害防止を図るため、芋川流域において直轄砂防事業を実施し、地域の復興を支援します。

## 2. 事業の経緯

平成16年10月23日 「新潟県中越地震」発生

平成16年11月5日 「寺野地区」「東竹沢地区」直轄砂防災害関連緊急事業で実施決定

平成16年12月12日 「寺野地区」仮排水路完成

平成17年2月20日 「東竹沢地区」仮排水路完成

平成16年度より直轄砂防災害関連緊急事業等において、優先度の高い箇所から砂防えん堤等の工事を実施

## 3. 平成18年度事業の内容

河道内に大量に堆積している不安定土砂による土砂災害防止のため砂防えん堤工及び溪岸保全工等を実施します。



塩谷川地区（砂防えん堤工）



いしな  
石名海岸侵食対策事業の促進  
～人工リーフによる越波防止・砂浜復元～  
石名海岸（新潟県佐渡市）

1. 事業の概要

1) 目的

石名海岸は、佐渡島北部、外海府の中央やや東部に位置し、佐渡・弥彦・米山国定公園内にある海岸です。

背後には石名地区の人家が密集しており、唯一の生活道路である主要地方道佐渡一周線が縦貫しています。海岸保全施設として護岸が設置されていますが、近年海岸侵食が激しくなり、護岸前面の砂浜が減少したため、背後の人家や田畑、道路が日本海の荒波をまともに受け被害が発生しています。

そこで、越波への対策を図りつつ、これ以上の侵食を防ぎ、かつての様な砂浜が復元する施設として人工リーフの整備を促進します。

2) 全体計画

事業期間：平成14年度～平成18年度

事業延長：560m（人工リーフ施工区間）

全体計画：人工リーフ 4基

2. 事業の経緯

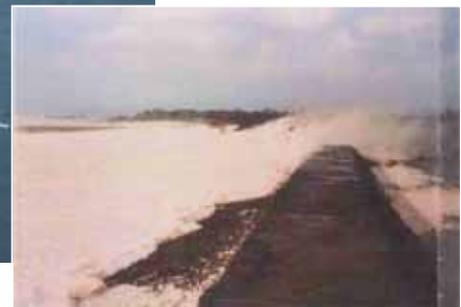
平成14年度に侵食対策事業に採択され、事業に着手。

3. 平成18年度の要求内容

4基目の人工リーフを施工し、事業を促進します。



事業箇所（平成16年3月撮影）



波浪状況（昭和55年12月撮影）

うかわ  
**鵜川ダム建設事業の促進**  
～ 柏崎市街地を水害から守り、耕地を潤す～  
鵜川ダム（新潟県柏崎市）

1. 事業の概要

1) 目的

洪水調節

（ダム地点の基本高水流量 300m<sup>3</sup>/s のうち、110 m<sup>3</sup>/s の洪水調節を行う。）

流水の正常な機能の維持

（既得用水の補給を行なう等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。）

2) ダム諸元

ダム形式：ロックフィルダム

ダム高：55.0m

堤体積：944 千 m<sup>3</sup>

総貯水容量：4,700 千 m<sup>3</sup>

3) 全体事業費

総事業費：約 3 2 0 億円（国費：約 1 6 0 億円）

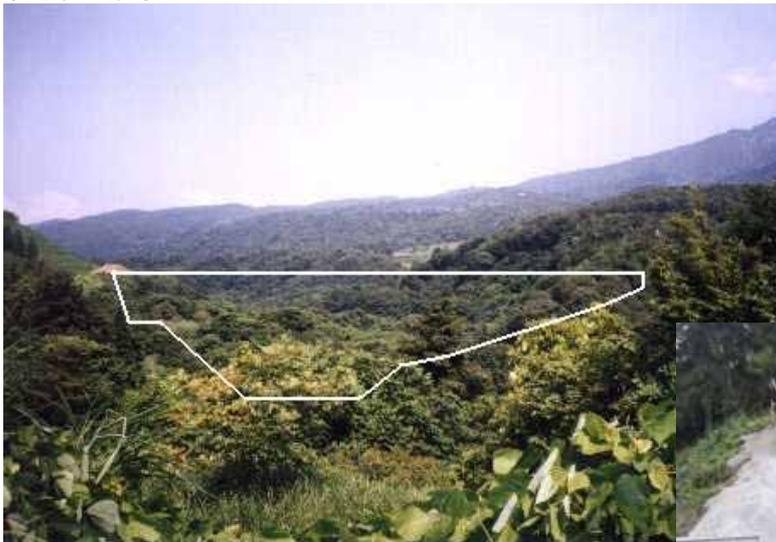
2. 事業の経緯

昭和 50 年度	実施計画調査着手
昭和 56 年度	建設事業着手
平成 15 年度	ダム本体工事着手
平成 29 年度	完成予定

3. 平成 18 年度の要求内容

本体掘削に向けて、仮排水トンネルの進捗を図ります。

ダムサイト



上流より下流を望む

工事状況



仮排水トンネル吐口を望む(平成 16 年 10 月撮影)

# 大坪用水堰改築事業の推進

～神通川支川井田川の治水安全度向上～  
神通川水系井田川（富山県富山市）

## 1．事業の概要

### 1) 目的

昭和41年に設置された大坪用水堰（農業用取水堰）は、神通川支川井田川の扇状地の扇頂部に位置し、治水上重要な箇所には設置されていますが、堰高が高く、かつ固定堰のため洪水流下の支障となっています。

そのため、流下能力の向上を図ることを目的に現固定堰を可動堰に改築するものです。

改築にあたっては、富山市（旧八尾町）で実施する「まちづくり総合支援事業」と連携を図りながら実施しています。

### 2) 全体計画

堰改築 1基、築堤護岸 800m 等

## 2．事業の経緯

平成14年度に「特定構造物改築事業」に採択され、改築事業に着手し、平成15年度より堰本体工に着手しています。

## 3．平成18年度の要求内容

平成18年度は、築堤及び旧堰撤去を実施し、事業を推進します。



現在の大坪用水堰



改築中の大坪用水堰（H17.3月）

# 富山平野を守る白岩砂防えん堤の保全対策

～ 白岩砂防えん堤左岸盛土部補強対策工の推進～  
常願寺川水系湯川（富山県富山市・中新川郡立山町）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

立山砂防の基幹えん堤であり、日本一の落差を持つ白岩砂防えん堤（副えん堤7基を含め108m）は、昭和44年洪水をはじめとする幾多の洪水時に土砂流出を抑制する機能を発揮し、富山平野を土砂災害から守ってきました。しかし、完成後約60年を経過し、右岸山腹の崩壊が著しくなってきたこと、また、現行基準に適合した安全な施設とするため、白岩砂防えん堤保全対策の検討を行い、平成11年度から右岸部斜面岩盤補強対策工事に着手しました。

事業の実施にあたっては、白岩砂防えん堤が国の登録有形文化財になったこと等を鑑み、砂防えん堤並びに周辺環境を損なうことがないように、最新の技術を導入し保全対策の推進に努めていきます。

### 2) 全体計画

- 保全内容
- (1) 右岸岩盤崩落による水通し部閉塞の防止
  - (2) 左岸盛土部の補強対策
  - (3) 白岩砂防えん堤本体の安定性確保

## 2. 事業の経緯

- |        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 平成10年度 | 設計・施工一括発注方式（デザイン・ビルド方式）として右岸対策に着手 |
| 平成11年度 | 第1期工事として第1・第2トンネル掘削工事に着手          |
| 平成12年度 | 右岸部斜面補強対策アンカー工に着手                 |
| 平成15年度 | 第2期工事に着手、引き続きアンカー工の推進             |
| 平成17年度 | 右岸部斜面補強対策工事完了予定                   |

## 3. 平成18年度事業の内容

平成18年度は、左岸盛土部対策を推進します。

### 左岸盛土部対策の概要

- ・盛土工
- ・集水井工



白岩砂防えん堤左岸盛土部補強対策

くろせ  
**黒瀬川鉄道橋・道路橋緊急対策事業の促進**  
黒瀬川水系黒瀬川（富山県黒部市）

1. 事業の概要

1) 目的

黒瀬川は昭和 54 年度に河川改修事業に着手し、J R 北陸本線橋下流の L = 2,300m に  
おいて河積拡幅等の整備を進めてきました。その結果 J R 橋下流部については概成し、  
治水安全度の向上が図られているのに対して、J R 橋部及び県道橋部は依然として河  
道断面が狭小のままとなっているため、これに起因する浸水被害が発生しています。  
(平成 10 年 7 月洪水 床上 4 戸、床下 12 戸の浸水被害)

この橋梁によるネック地点を早急に改修し、引き続き黒瀬川の上流部の河川改修が  
進められるように、本事業で鉄道橋と県道橋の架替えを実施します。

2) 全体計画

事業期間：平成 15 年度～平成 21 年度

全体計画：鉄道橋、道路橋の架替え

2. 事業の経緯

平成 16 年度 鉄道橋及び県道橋の詳細設計及び用地補償を実施。

平成 17 年度 鉄道橋の架替えに着手。

3. 平成 18 年度の実施内容

平成 18 年度は、鉄道橋の架替え促進、県道橋の架替えに着手。



H10.7 洪水 県道橋より上流を臨む

# 緑豊かでうるおいのある斜面空間の創造

## 七軒町地区急傾斜地崩壊対策事業の促進～

### 富山県 七軒町地区（富山県氷見市）

#### 1. 事業の概要

##### 1) 目的

七軒町地区は、富山県西部の氷見市街地の中心部にある朝日山丘陵に位置しており、斜面上部は市民の憩いの場として親しまれてきた反面、急峻な斜面は地質も脆弱で崩壊の危険性が高く、昭和36年3月には土砂崩れが人家を直撃するなど、過去数多くの斜面崩壊が発生しており、地域住民から本格的な対策を望む声が上がっていました。

そこで、人家133戸、国道70m、県道550m等を保全対象として、急傾斜地崩壊対策事業により、平成8年度から排土工や法面緑化の斜面整備に着手しています。この中で排土工により発生する約20万m<sup>3</sup>の土砂は、氷見漁港の埋め立て工事や道路工事などに有効利用しています。

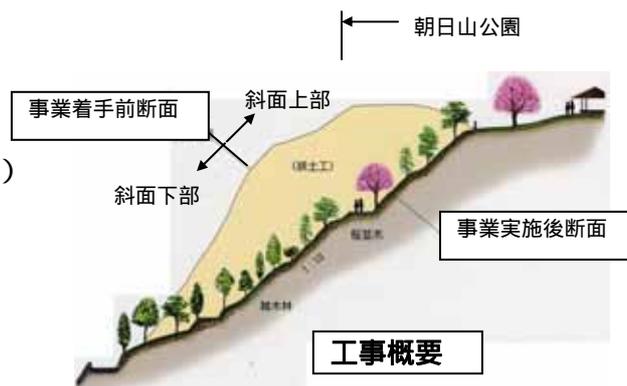
平成7年に、地域住民・婦人会代表や学識経験者、県・市を交えた整備構想策定委員会で「わが町の斜面整備構想」が策定されましたが、本事業はこの構想に基づき、氷見市の実施する朝日山公園整備事業と一体となり、安全と環境の保全に配慮した、住民に親しまれる斜面づくりを促進していきます。

##### 2) 事業計画

事業期間：平成8年度～平成19年度（予定）

主な工種：排土工 約200,000m<sup>3</sup>

法面工 約22,000m<sup>2</sup>



#### 2. 事業の経緯

平成8年度 急傾斜地崩壊対策事業に着手

#### 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は、排土工及び法面工を促進し、事業の進捗を図ります。



かけはしがわ

# 梯川重点区間改修事業の推進

～大規模引堤による治水安全度の向上～  
梯川水系梯川（石川県小松市）

## 1．事業の概要

### 1) 目的

梯川水系梯川は小松市街地を貫流する都市型河川であり、氾濫域に人口、資産等が集中しており、また流下能力が大きく不足しているため、氾濫による被害は甚大なものが予想されます。

このため治水安全度の向上を目的に、特に流下能力が不足している河口から1.0km～6.0km迄（前川合流点～白江大橋間）を重点改修区間と位置付け、下流部より順次引堤による堤防整備を行っています。

また改修区間には、小松天満宮（国指定重要文化財）が存在し地域のシンボルとなっていることから、現位置での保存を図る分水路方式による河川整備を行います。

### 2) 全体計画

築堤、旧堤撤去、附帯施設改築、分水路整備 等

## 2．事業の経緯

平成8年度の着手以降、河川改修に必要な用地取得、補償や引堤による堤防整備を実施しています。

## 3．平成18年度の要求内容

引き続き、重点改修区間である小松地区の堤防整備（引堤）を推進するため、用地買収、附帯施設の改築等を推進します。



# 柳谷上流砂防堰堤群の整備推進

～ 先端技術を駆使した完全無人化施工～  
手取川水系柳谷（石川県白山市）

## 1．事業の概要

### 1) 目的

手取川最上流部の柳谷に位置する柳谷第3号、第6号砂防堰堤は、甚之助谷砂防堰堤群の基幹堰堤です。平成4～7年の度重なる出水により、これらの砂防堰堤が倒壊する危険性が生じたため、砂防堰堤の補強を行い甚之助谷砂防堰堤群によって抑制・拵止されている膨大な堆積土砂の流出防止を図ることを目的として、<sup>どおりゅうらくさこう</sup>導流落差工及び既設砂防堰堤嵩上げ工を実施します。

工事箇所は急峻で土石流や落石の危険が大きい河床内であり、非常時における避難時間の確保が困難な現場であるため、無人化工法を採用し工事の安全確保を図ります。

### 2) 全体計画

導流落差工：高さ60m（落差工11段、床固工1基）延長129m

既設堰堤嵩上げ工：3基（柳谷第21号、22号、24号堰堤）

## 2．事業の経緯

平成8～9年度 柳谷第3号、第6号堰堤を災害復旧

平成9年度 無人化施工による導流落差工に着手

平成14年度 日本初の大型無人クレーンによる完全無人化技術開発に着手

平成16年度 大型無人クレーンによる完全無人化施工に着手

## 3．平成18年度事業の内容

導流落差工の左岸側は落石・崩壊の危険が高いため、大型無人クレーンによる完全無人化施工により工事を推進します。また、柳谷第22号堰堤において嵩上げ工を推進します。



H4年の出水による柳谷第3号、第6号砂防堰堤の被災状況



導流落差工の施工状況



無人クレーン

無人化施工の状況

さいがわ

# 犀川都市広域基幹河川改修事業の促進

犀川水系犀川（石川県金沢市）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

犀川では昭和 54 年度に河川改修事業に着手し、河口部から J R 北陸本線橋下流までの L=7,350m 区間において、河道拡幅や築堤等の整備を進めてきました。しかし、未だ河川整備が進んでいない区間もあるため、引き続き沿川の治水安全度の確保を目的として、河道断面が不足している伏見川・十人川から河口部までの約 L=4,200m 区間の重点的な整備を促進します。

### 2) 全体計画

事業期間：昭和 54 年度～平成 28 年度

全体計画：河道掘削・築堤、橋梁架替え

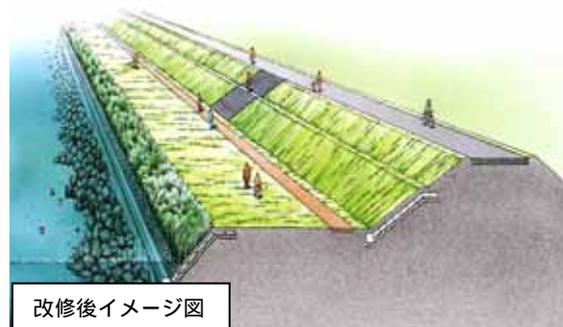
## 2. 事業の経緯

平成 16 年度 河道掘削・築堤、犀川橋下部工。

平成 17 年度 築堤、犀川橋上部工に着手予定。

## 3. 平成 18 年度の実施内容

平成 18 年度は、犀川橋の上部工・取付道路工を施工し、架替えを促進させるとともに、河道掘削・築堤を実施します。



ほうりゅうしょういん

# 宝立正院海岸侵食対策事業の促進

～ 白砂青松海岸の復元～

宝立正院海岸（石川県珠洲市）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

宝立正院海岸は、能登半島の北部に位置する砂浜海岸で、軍艦の姿で知られる名勝「見附島」もある、能登半島有数の観光名所です。昭和34年の伊勢湾台風を契機に護岸・消波工等の整備が進められてきましたが、平成3年台風19号、平成16年台風15号等により多大な被害を受けており、いまだに十分な安全性が確保されていない状況にあります。

また、当海岸は能登半島国定公園内に位置していることもあり、自然環境や景観に配慮しながら、人工リーフ・離岸堤・緩傾斜護岸等を整備し、安全で人々の生活に潤いをもたらす、快適性や利便性に配慮した海岸を創出するものです。

### 2) 全体計画

事業期間：昭和59年度～平成22年度

事業延長：3,763m

全体計画：人工リーフ 3基、離岸堤 24基、護岸工 2,772m

## 2. 事業の経緯

昭和59年度に侵食対策事業に採択され、事業に着手。

平成16年度までに正院地区、上戸地区の離岸堤24基と護岸1,622mが完成。

平成3年から平成7年まで宝立地区で人工リーフ2基と護岸を整備。

平成17年度から3基目の人工リーフに着手。

## 3. 平成18年度の要求内容

3基目の人工リーフを整備促進します。



平成15年8月9日台風10号

越波状況



平成16年6月15日撮影

現況護岸老朽化状況



# 横川ダム 本体工事を推進

～ 荒川流域の治水安全度向上～

やまがたけんにしおきたまぐん おくにまち  
山形県西置賜郡小国町

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

洪水調節

(ダム地点の基本高水流量 880m<sup>3</sup>/s のうち、570 m<sup>3</sup>/s の洪水調節を行う。)

河川環境の保全のための流量確保

(ダム地点下流横川及び荒川沿川の既得取水の安定化等のための流量を確保する。)

工業用水の供給

(小国町に対し、最大 7,000 m<sup>3</sup>/日の工業用水を供給する。)

発電

(横川ダムの建設に伴い、新設される横川発電所において、最大出力 6,300kw の発電を行う。)

### 2) ダム諸元

ダム形式：重力式コンクリートダム

ダム高：72.5m

堤体積：約 25 万 m<sup>3</sup>

総貯水容量：2,460 万 m<sup>3</sup>

## 2. 事業の経緯

昭和 62 年度	実施計画調査着手
平成 2 年度	建設事業着手
平成 3 年 3 月	基本計画告示
平成 3 年 12 月	補償基準妥結
平成 15 年 3 月	横川ダム本体建設工事着手
平成 16 年 6 月	横川ダム本体コンクリート初打設
平成 17 年 5 月	定礎式
平成 17 年 6 月	基本計画変更告示

## 3. 平成 18 年度の要求内容

ダム本体工事を引き続き推進します。



ダム本体コンクリート打設中の横川ダムサイト  
(上流からダムサイトを望む：平成 17 年 8 月撮影)

# 阿賀川下流狭窄部改修を推進

## ～穏やかな流れへのプロジェクト～

### 阿賀野川水系阿賀川（福島県河沼郡会津坂下町）

#### 1. 事業の概要

##### 1) 目的

阿賀川下流の狭窄部は、川幅が狭く流下能力が少ないため、古くから会津盆地の水害の原因ともなっており、昭和57年9月の戦後最大規模の洪水では、沿川に大きな被害をもたらしました。

そのため、昭和58年から阿賀川下流狭窄部改修事業に着手し、平成10年度に泡の巻地区改修を完成し、引き続き津尻地区の河道掘削に着手しています。

##### 2) 全体計画

河道掘削 約630千m<sup>3</sup>、護岸 約5千m<sup>2</sup> 等

#### 2. 事業の経緯

平成10年度に泡の巻地区改修事業を完成し、引き続き平成11年度より津尻地区の改修に着手しています。平成17年度末までに河道掘削約531千m<sup>3</sup>を実施します。

#### 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は、引き続き会津坂下町津尻地先において河道掘削を実施し、早期完成にむけて事業を推進します。



# 大規模地すべりから阿賀野川流域を守る

～ 滝坂地すべり対策事業の推進 ～

阿賀野川（滝坂地区）（福島県<sup>やまぐん</sup>耶麻郡<sup>にしあいづ</sup>西会津町）

## 1．事業の概要

### 1) 目的

阿賀野川水系阿賀川に接する滝坂地すべりは、面積約150ha、推定地すべり移動土塊量約4800万 $m^3$ であり、日本有数の大規模地すべりです。地すべり活動が活発化すると、その移動土砂が阿賀川を閉塞し、沿川に浸水被害などをもたらす懸念があるため、阿賀野川流域の治水上重要な箇所となっています。

このため、平成8年度より直轄事業として着手し、地すべりを発生させる誘因となる地下水を排除するための集水井等の整備を進めています。

### 2) 全体計画

事業計画：排水トンネル、集水井、排水ポンピング、集水ポンピング等

## 2．事業の経緯

平成8年度	直轄事業として着手
平成11年度	下沢の目集水井群対策完了
平成14年度	大石出口集水井群対策完了

## 3．平成18年度事業の内容

優先度の高い松坂地区等の集水井群をはじめとした地すべり対策を推進します。また、危機管理対策として、光ファイバーセンサーやGPS観測機器等のIT防災情報基盤整備による地すべり監視の充実等を図り、ハードとソフトによる地すべり対策を推進します。



滝坂地すべりを上空より望む



GPS観測装置

# 安心して暮らせる川づくり

## 無堤地区の解消に向けて事業推進

～千曲川：立ヶ花下流部無堤地区対策を推進～

長野県中野市

### 1. 事業の概要

#### 1) 目的

千曲川の立ヶ花下流部は川幅が狭く、無堤・弱小堤が連続しており洪水を安全に流すことができないため、昭和56年、57年、58年と連続した大出水では、甚大な浸水被害が生じたことから、同規模の洪水を安全に流すことを目的に、無堤地区対策を計画的に実施しています。

平成16年10月20日の台風23号出水では、現在無堤地区対策を実施中の箇所においても浸水被害が発生したことから、再度災害防止に向けて対策を推進しています。

#### 2) 全体計画

柳沢地区：築堤760m、樋門1基

替佐地区：築堤1,450m、樋門3基

### 2. 事業の経緯

整備にあたっては、甚大な浸水被害が想定される家屋連担箇所を中心に築堤を実施してきており、全体12箇所のうち平成16年度までに6箇所が概成しています。

中野市柳沢地先については平成14年度に着手、中野市(旧豊田村)替佐地先については平成10年度に着手し、現在事業を実施しています。

### 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は、築堤等を実施し、早期完成にむけて事業を推進します。



H16年10月台風23号  
千曲川の出水状況

【撮影：H16.10.21】



# 緑の溪流を再生する浦川溪岸山腹工の整備推進

## ～急峻な斜面での無人化施工～

姫川水系浦川（長野県北安曇郡小谷村）

### 1. 事業の目的

#### 1) 目的

浦川流域は、風吹岳、稗田山を水源とする流域面積22km<sup>2</sup>の荒廃河川です。流域内は火山堆積物や来馬層からなる極めて脆弱な地質で、明治44年に大災害を引き起こした「稗田山の大崩壊」があり、過去、幾多の土石流により多大な被害が発生したほか、平成7年7月出水では、大量の土砂が姫川本川に流出し、鉄道、道路や民家に被害が発生しました。

このため、H14年度より浦川溪岸山腹工に着手し、土砂生産源となっている溪岸斜面の崩壊を防止し、浦川への土砂流出抑制と流路の安定を図るものです。

また、工事箇所は急峻かつ狭隘な河床内であり、斜面崩落、土石流の危険性が大きく非常時における避難が困難な現場であるため、斜面での作業は無人化による工法により工事中の安全確保を図ります。

#### 2) 全体計画

事業計画：山腹工、溪岸工

### 2. 事業の経緯

平成14年度 山腹工に着手。



### 3. 平成18年度事業の内容

平成18年度は引続き山腹工を整備推進します。

無人機械による施工状況



浦川の溪岸斜面の崩壊状況



緑化後のイメージ図

# 観光振興に資する平湯川砂防樹林帯の整備推進

～みどりを活用した砂防事業の推進～

神通川水系平湯川（岐阜県高山市）

## 1. 事業の目的

### 1) 目的

砂防樹林帯は、川の中にある樹木の力により、洪水の時に土砂が流れないように、また上流から流れてきた土砂が止まるように計画します。

平湯川では、この良好な自然の木々をそのまま樹林帯として取り組み、現在の自然を可能な限り保全しながら、上流の「しのぶ砂防えん堤」と一体となった、自然環境を活かした砂防施設として整備するものです。

現在の堤防では、大洪水の際には土砂が堆積すると、下図に示したように溢れてしまいます。そこで、現在の堤防の背後に新しく導流堤を建設し、河幅を広げることによって、大洪水時に土砂が堆積しても氾濫することが無くなり、地域住民や観光客の安全が図られます。

### 2) 全体計画

事業計画：流路延長 1500m、床固工、帯工、導流堤

## 2. 事業の経緯

平成 10 年度 事業着手

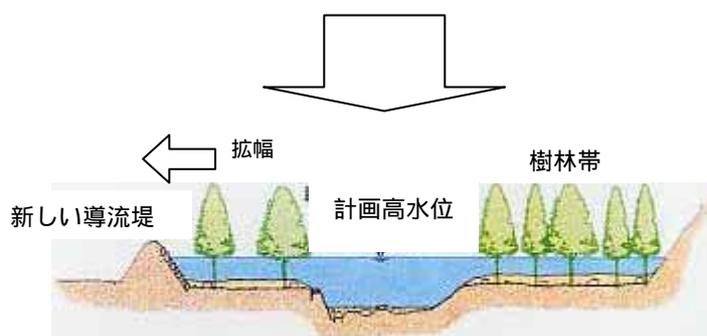
平成 16 年度 帯工 2 基完成、導流堤（708m）完成

## 3. 平成 18 年度事業の内容

平成 18 年度は、帯工及び導流堤の整備を推進します。



現在の川の断面図



完成後の川の断面図



平湯樹林帯計画箇所

# 「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」 の推進

## 1. 事業の概要

中越地震の発生や東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震等の大規模地震に対する震災対策を進めるため、国と地方が連携して策定する「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」に基づき平成19年度までの3箇年で概ね完了を目指すべく、橋梁の耐震補強を重点的に実施します。

## 2. 平成18年度事業の内容

平成18年度は、新潟県の7号、8号、17号、49号、113号、富山県の8号、41号、156号、160号、石川県の8号、159号のうち、特に優先的に耐震補強を実施する必要がある橋梁の橋脚補強及び落橋防止装置を設置します。

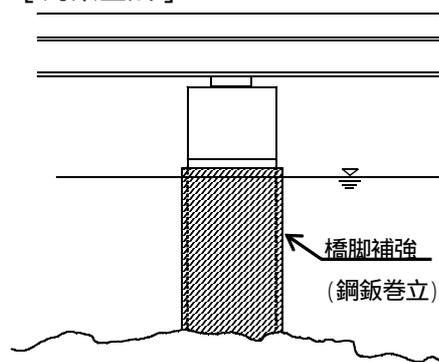
## 3. 代表事例

(1) 一般国道7号阿賀野川大橋（新潟市）

新潟県新潟市一日市に位置する阿賀野川大橋（L=903m）は、一級河川阿賀野川を横架し、新新バイパスの交通量約10万台/日を支える橋梁で、地震で被災した場合、緊急輸送路の分断及び復旧・救急・消防活動および経済活動に重大な支障をきたす恐れがあることから早急な対策が必要とされています。

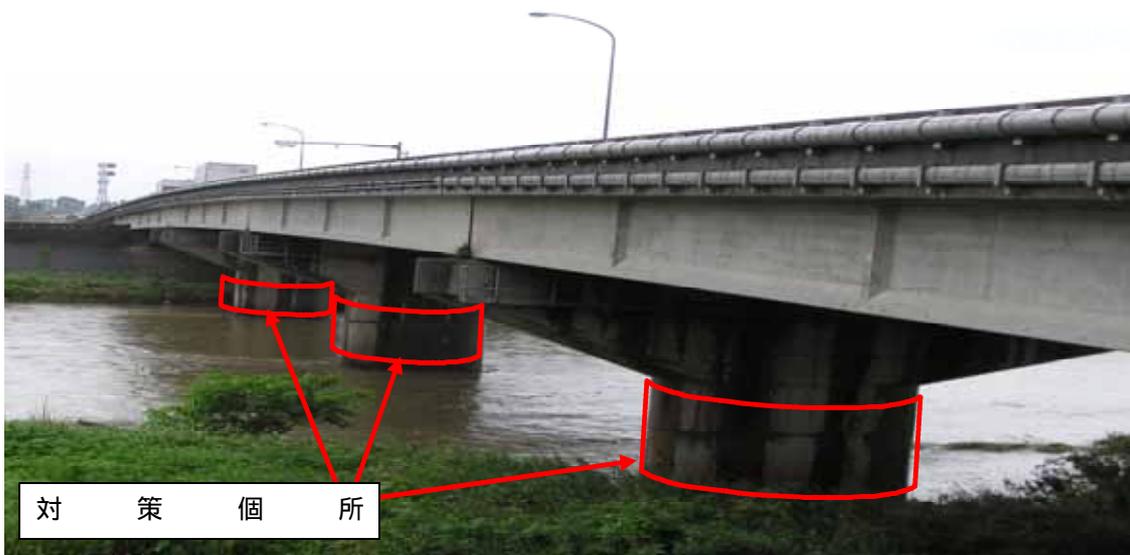
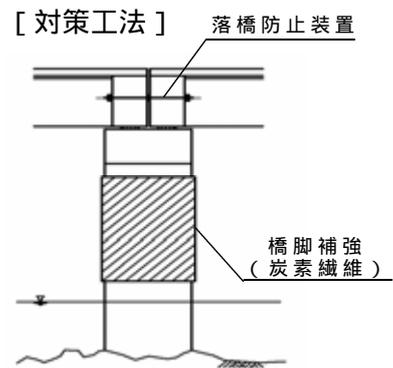


[ 対策工法 ]



(2) 一般国道8号茅焔橋 (小矢部市)

富山県小矢部市坂又ひぐらしばし～同市西中野あやべしさがまたに位置する茅焔橋 (L = 352 m) は、一級河川小矢部川を横架し、小矢部バイパスの交通量約1万4千台/日を支える橋梁で地震で被災した場合、緊急輸送路の分断及び復旧・救急・消防活動および経済活動に重大な支障をきたす恐れがあることから早急な対策が必要とされています。



# 交通事故対策の推進

一般国道157号 ほりうちきたこうさてんかいりょう 堀内北交差点改良

いしかわ いしかわ ののいち 石川県石川郡野々市町

## 1. 事業の概要

ほりうちきた 堀内北交差点改良は、右折車線がないことによる、右折待ち車両への追突や無理な右折による出会い頭事故と、車線区分線のない狭幅の片側2車線部で接触事故等が多発（年平均死傷事故件数：11件）しています。

このため、右折車線の設置と車道幅員の拡幅により、死傷事故の軽減を目的とした延長約0.4kmの事業です。

## 2. 事業の経緯

本事業は、平成17年度に事業着手し、設計・協議、地元説明を行い用地買収に着手します。

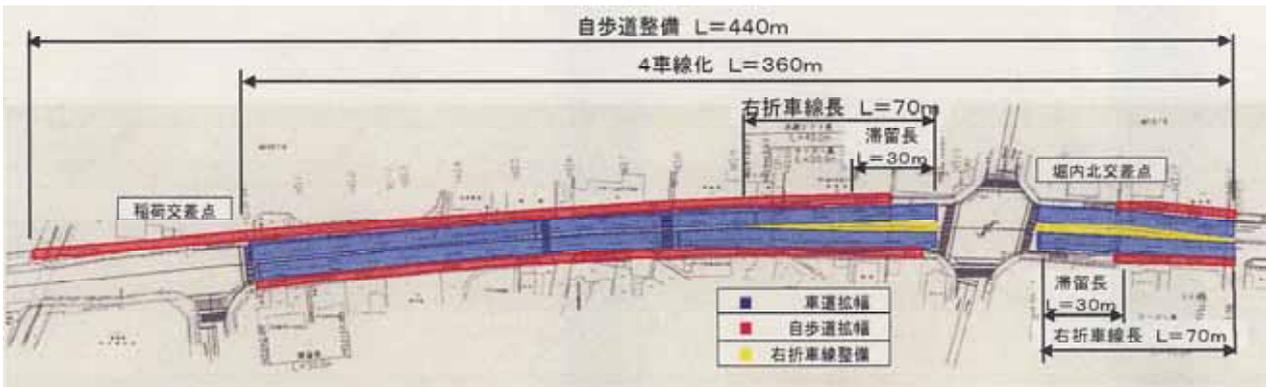
## 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は、平成19年度からの工事着手に向けて、用地買収を進めます。

位置図

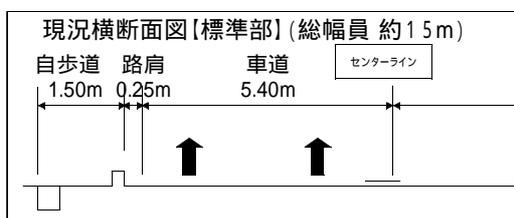


【平面図】

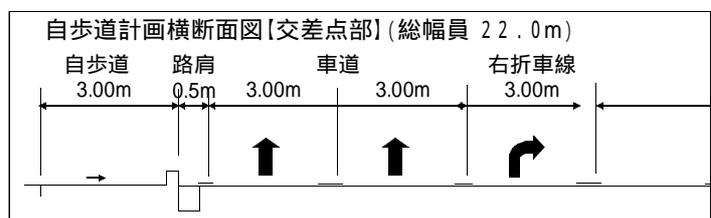


【横断面図】

現況



計画



# 新潟港海岸（西海岸地区）侵食対策事業の整備推進

～ 地域住民を守り、憩いの場としての海岸を創出～

新潟港海岸（新潟県新潟市）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

新潟港海岸（西海岸地区）は、著しい侵食傾向にある海岸であったことから侵食対策工事が行われてきました。しかし、日本海側特有の冬季風浪により施設前面の海底が侵食され崩壊の危険があったことから、恒久的な対策と併せて快適で潤いのある海岸環境の創出が可能となる「面的防護工法」により整備を行っています。以来、「国土保全」という観点から着々と整備が進んでいます。一方、市民からは過去に失われた白砂青松を蘇らせて、「憩いの場としての海岸」を創出することへの強い要望があることから、「ふるさと海岸整備事業」として快適な海岸空間の創出に向けて事業を進めています。

### 2) 全体計画

国土交通省：離岸堤（潜堤）、突堤、護岸（養浜）：昭和61年度～平成28年度

## 2. 事業の経緯

昭和61年度に大規模な面的防護工法の先駆として直轄による「侵食対策事業」に着手。平成7年度には快適な海岸空間の創出に向けた「ふるさと海岸整備事業」に認定。

## 3. 平成18年度の要求内容

離岸堤（潜堤）、突堤、護岸（養浜）の整備推進を図ります。



# 耐震強化岸壁（旅客船ターミナル）の整備促進

## 七尾港：石川県七尾市

### 1．事業の概要

大規模地震発生時における緊急物流機能の確保や住民の避難、緊急物資輸送に対処するために既存施設の耐震化を行い、併せて観光やレクリエーションの拠点とするため旅客船ターミナル(水深7.5m)として整備を行います。

### 2．事業の経緯

平成7年度に事業着手。

### 3．平成18年度の要求内容

引き続き、鋼管杭工、本土工及び地盤改良工の施工を進め、整備促進を図ります。



七尾港旅客船ターミナル イメージパース

# 福井港海岸（福井地区）侵食対策事業の整備推進

～ 国民の生命・財産を守る海岸防護機能を確保～

福井港海岸（福井県福井市・坂井郡三国町）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

福井港海岸では、既存護岸前面で侵食が生じており、さらに日本海特有の冬季風浪とも相俟って、護岸前面消波ブロックの飛散による被災、越波による被災及び護岸背後の陥没被災が続いています。あわせて、護岸背後地の地盤の液状化判定が「液状化する」との結果になったことなど現状施設は非常に危険な状態となっております。

このため、万が一にでも海岸護岸が倒壊するような事態が発生した場合は、背後の重要施設のみならず、周辺海域・海岸を含む広範囲に甚大な被害を及ぼす恐れがあります。

こうしたことから、国民の生命・財産を守り国土保全を図ることを目的として、国による侵食対策、液状化対策を海岸保全施設の整備により行っています。

### 2) 全体計画

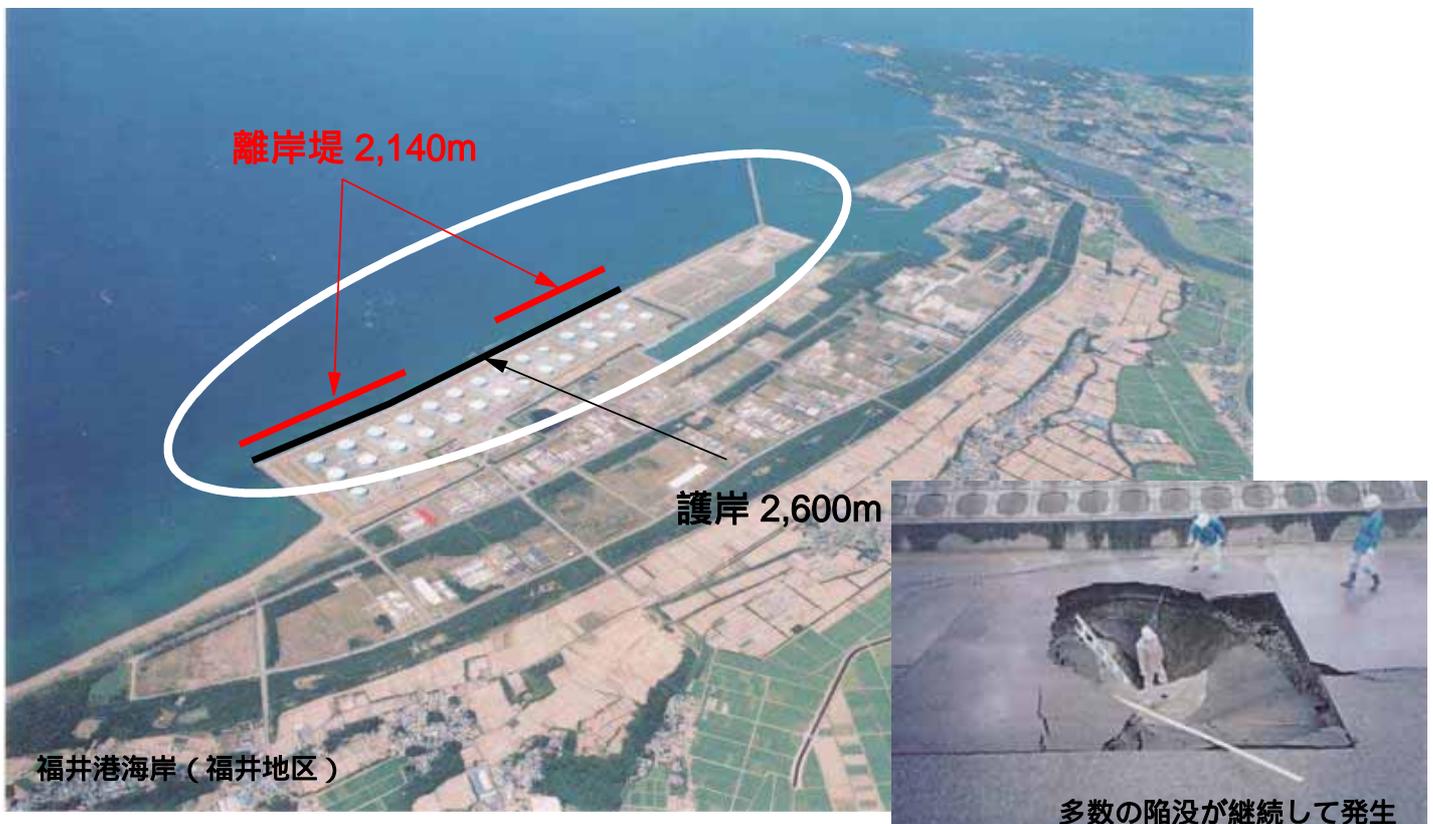
国土交通省：離岸堤（潜堤）、護岸（改良）：平成16年度～平成29年度

## 2. 事業の経緯

平成16年度に直轄による「侵食対策事業」に着手。

## 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は、離岸堤（潜堤）及び既設護岸の改良の整備推進を図ります。



# 耐震強化岸壁の整備促進

敦賀港：福井県敦賀市

## 1. 事業の概要

大規模地震発生時における緊急物資輸送、緊急物流機能の確保に対処するために、敦賀市の市街地からのアクセスが容易であり、避難地として利用できる金ヶ崎緑地に隣接する蓬萊・桜地区の既設岸壁(-5.5m)の耐震化を図ります。

## 2. 事業の経緯

平成 16 年度より事業着手、平成 17 年度に現地着工し、整備を促進しています。

## 3. 平成 18 年度の要求内容

引き続き、岸壁改良の整備促進を図ります。



敦賀港の現況(平成 15 年 10 月撮影)

# 敦賀港海岸 侵食対策事業の整備促進

～ 自然豊かな白砂青松の海岸を復元～  
敦賀港海岸（福井県敦賀市）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

日本三大松原の1つである「気比の松原」を有する敦賀港海岸松原地区は、昔ながらの日本の海岸を代表する白砂青松の風景を持ち、毎年多数の海水浴客等で賑わっていますが、近年の砂浜の侵食により貴重な自然景観を失いつつあります。

このため、自然景観に配慮した養浜主体の海岸保全施設の整備により、以前の自然豊かな白砂青松の海岸に復元を図ると共に、背後の国有林と一体となった利用しやすい海水浴場とすることを目的に整備を進めています。

また、常宮、名子地区においても、海岸侵食に伴う越波等の被害を防止するために、離岸堤の整備促進を図っています。

### 2) 全体計画

福 井 県：養浜、離岸堤等：平成5年度～平成21年度（松原、常宮、名子地区）

## 2. 事業の経緯

平成5年度に「侵食対策事業」として常宮地区に着手。

平成6年度に「侵食対策事業」として松原地区に着手。

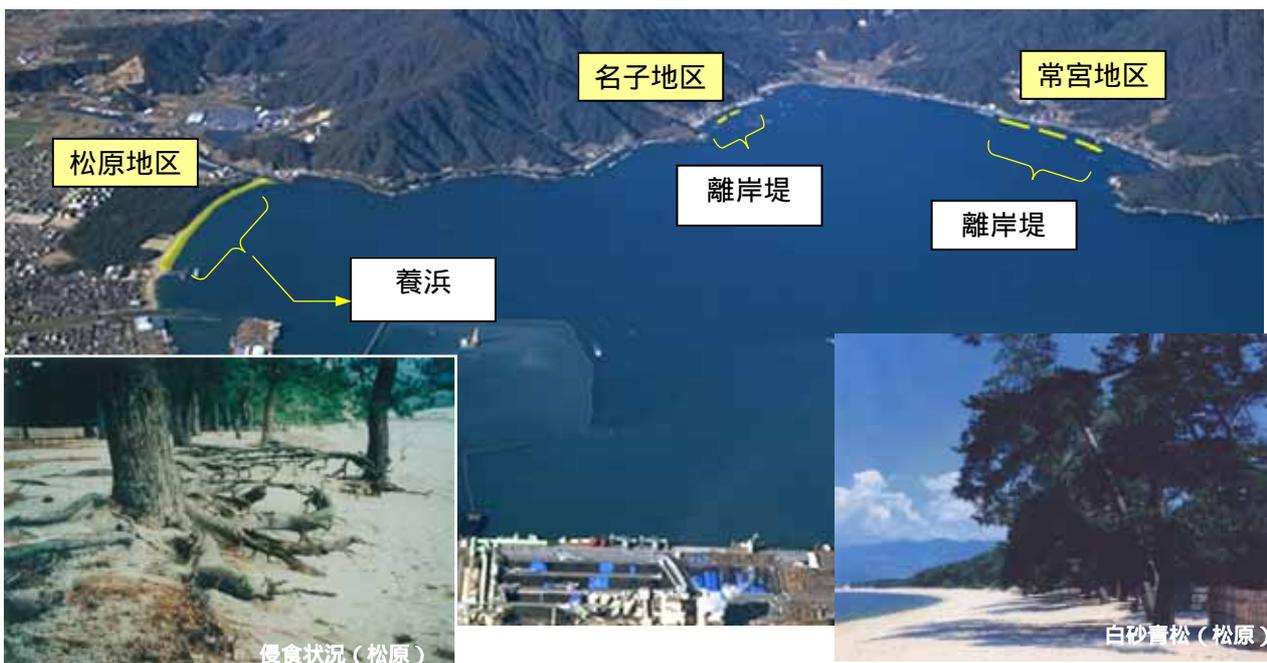
平成7年度に「エコ・コースト事業」として松原地区認定。

平成12年度に「自然豊かな海と森の整備対策事業（白砂青松）」として松原地区認定。

平成15年度に「侵食対策事業」として名子地区に着手。

## 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は、養浜、離岸堤の整備促進を図ります。



# 地域防災力を向上させ、災害に強いまちへ

～三条地区まちづくり交付金の促進～

(新潟県三条市)

## 1. 事業の概要

三条地区は、「平成16年新潟・福島豪雨」により甚大なる被害を受けました。この災害において、組織内の情報伝達方法や住民等への広報手段などの改善の必要性が明らかとなりました。

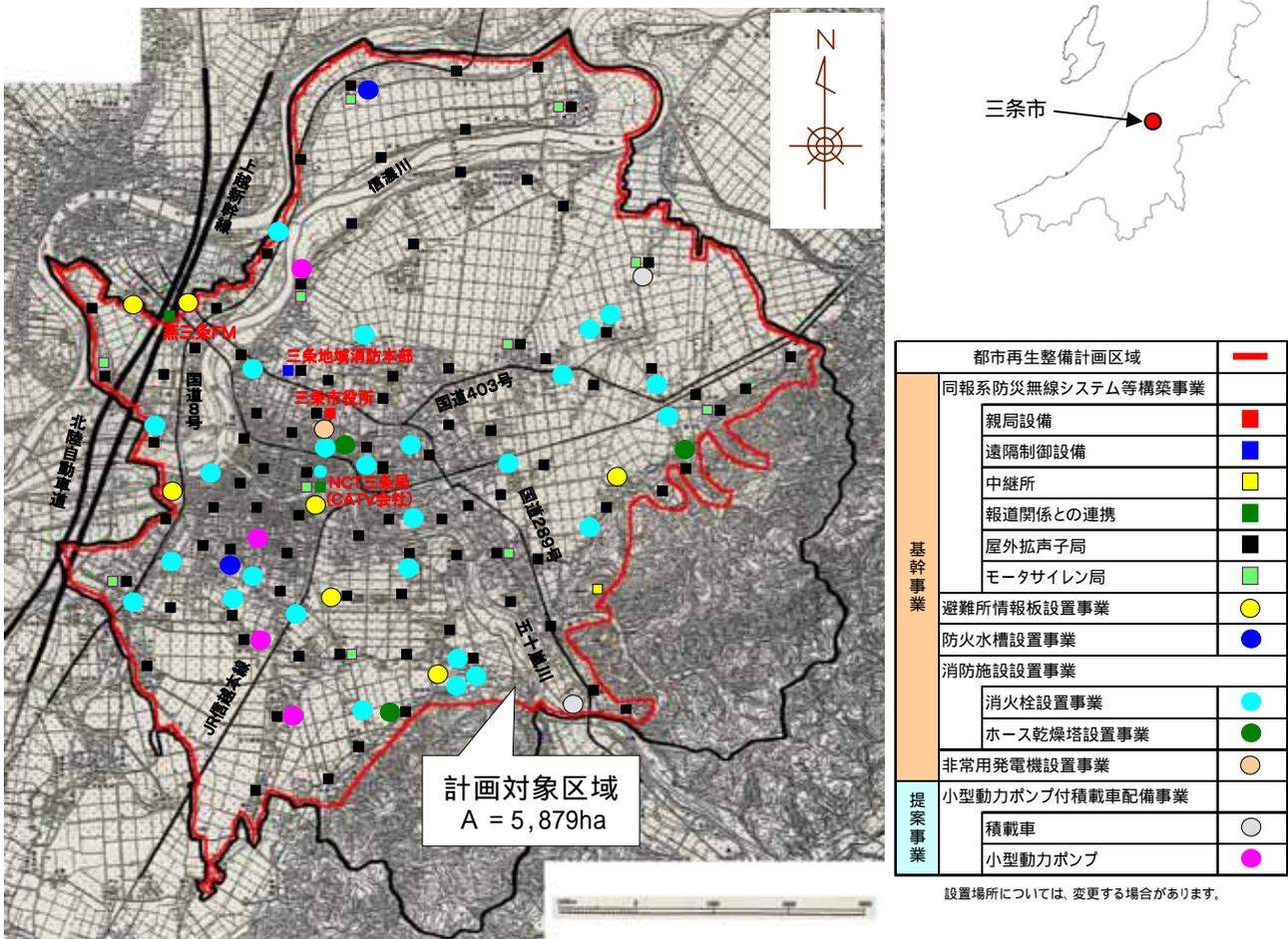
このため、まちづくり交付金により、災害対応マニュアルの作成や避難所情報板設置、ハザードマップ作成、自主防災組織支援、同報系防災無線システム構築、非常用発電機設置などを実施することにより、地域防災力の強化を基軸とした「災害に強いまちづくり」を進めます。

## 2. 事業の経緯

平成16年度にまちづくり交付金に採択され、事業に着手。

## 3. 平成18年度の要求内容

平成18年度は、同報系防災無線システムの構築や災害対応マニュアル作成、ハザードマップ作成、総合防災訓練の実施、小型動力ポンプ付積載車の配備等を促進します。これにより自主防災組織率(11.5% 31.4%)、災害関連情報受信可能世帯数(0% 95%)の向上を目指します。



# 金沢駅周辺雨水対策事業を促進 ～ 浅野第3ポンプ場の事業促進～ 公共下水道事業（石川県金沢市）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

金沢市中心部の香林坊、武蔵ヶ辻および金沢駅周辺を含む404haは合流式下水道で整備された区域です。

近年の都市化に伴う雨水流出量の増大により、集中豪雨時等に低地で溢水を生じるなどの被害が発生しています。また、金沢市では、北陸新幹線関連事業とともにJR金沢駅周辺地区の土地区画整理事業等を推進しており、今後さらに市街地の再開発が進むにつれ、区域内での浸水被害の拡大や越流汚濁負荷量の増大による公共用水域の水質汚濁などが予想され、早期にこれらの対策が必要になっています。

### 2) 全体計画

地上3階、地下4階 鉄筋コンクリート造

縦軸渦巻き斜流ポンプ 1350mm×201m<sup>3</sup>/分×30m×1400kw×4台

放流能力 13.4m<sup>3</sup>/s

## 2. 事業の経緯

7年確率降雨、50mm/時間に対応できるように、平成9年度より金沢駅周辺雨水増補幹線の築造に着手し、平成13年5月には発進坑を利用した暫定ポンプ場による暫定供用を開始しています。また、平成12年度から浅野第3ポンプ場の建設に着手しています。

## 3. 平成18年度の要求内容

ポンプ施設の電気機械設備工事を促進します。

